



指導班だより

教科指導力向上研修会の様子から①

中学校の学力向上指導員による提案授業を参観するとともに、日頃の指導上の課題に係る意見交換を行う中で、教科指導力の向上を図ることを目的とした「教科指導力向上研修会」を実施しています。今年度は、国語科、社会科、数学科、理科、外国語科、音楽科、美術科、技術・家庭科、保健体育科の9教科を計画し、これまで6教科の研修会を終えました。

教科専門の中学校教員だけでなく、教科の系統性の観点から小学校教員の参加も多く、学習指導の在り方や評価の仕方、小中連携等について学びを深める場となっており、参加後の先生方の満足度はかなり高い研修会となっています。

今回は、理科、外国語科、社会科の研修会の様子を紹介いたします。

中学校理科：柴田町立槻木中学校（9/1） 提供授業：3年「遺伝の規則性」



犬の毛色を題材として取り上げ、親の遺伝子が子にどのように現れるのかをモデルで可視化しながら考えさせる提案授業でした。miyagiTouchを取り入れ、ICTの効果的な活用を提案している授業でもありました。

授業後の協議では、ICTの活用の仕方や考察と振り返りのさせ方などが話題に出され、有意義な意見交換が行われました。

学習評価については特に思考力・判断力・表現力等で問題を見いだす力や分析して解釈する力、探究の過程を振り返る力が求められ、「指導と評価の一体化」を進めていくことが大事であることも確認し合うことができた研修会でした。

【参加者の感想から】

- ・子供と対話し、子供の言葉で授業を創っていかなければいけないのだと学ぶことができた。（小学校）
- ・理科である以上、子供から「なぜ」や不思議を引き出したい。（中学校）
- ・ホワイトボードを使って下位群の子供たちも学びに参加できる工夫があり、明日からの教材研究に生かしたい。（小学校）

中学校外国語科：村田町立村田第一中学校（9/14）
提供授業：1年「Daily Scene1」



1学年の授業提供で、ジェスチャーを取り入れながら相手に体調を尋ねることを最終ゴールとして学習活動が展開されていました。スモールステップで進められる授業のリズムの中で、生徒も自信を持って表現できるようになっていきました。

授業後の協議では、ペアワークやICTの活用、小中連携の状況について意見交換がなされました。

また、指導者（ALTも含め）による会話のモデルをたくさん聞かせながら、既習事項を含めて生徒の活動量の確保をすることの大切さや、新学習指導要領の改訂の要点と小・中学校の学習の系統性等についても研修を深めることのできた研修会でした。

【参加者の感想から】

- ・思考力・判断力・表現力等の育成を目指す授業の在り方を考えることができた。Small Talkで聞かせる大切さを学ぶことができた。（小学校）
- ・授業で子供たちに多く話させることの意義を再確認することができた。子供たちがより多く活動する授業づくりを心掛けたい。（中学校）

中学校社会科：白石市立白石中学校（9/28）
提供授業：1年「ヨーロッパ州 進むヨーロッパ統合」



ヨーロッパ諸国内で分離や独立の動きが見られる理由について、自分の意見を決めた上で異なる考えの生徒と話し合う授業を展開しました。予習課題と授業を連動させたり、映像資料を効果的に活用したりして、生徒の集中を引き出す工夫がありました。

授業後の協議では、ねらいと学習活動を一致させることの大切さや思考・判断の評価の仕方等について確認し合い、一単位時間で見取るのではなく、単元を通して見取れるよう、単元指導計画を意識して作成し活用していくことが大切である点も学んだ研修会となりました。

【参加者の感想から】

- ・ワークショップ形式の意見交換など、自分の授業でも取り入れたいものが多く、非常に参考になった。（中学校）
- ・思考力・判断力・表現力等、そして主体的に学習に取り組む態度などの評価について、どのように見取っていけばよいのか参考になった。（小学校）